

(様式1-2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名	ダム再生事業		路河川名等	(一)裾花川		
事業毎の通番	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	裾花ダム(すそばなだむ) 奥裾花ダム(おくすそばなだむ)		
事業目的	裾花ダム及び奥裾花ダムは、長野市街地を洪水被害から守る一方、上水道供給と発電を目的とした多目的ダムである。両ダムは、建設から40、50年の経過であるが、上流域の荒廃が著しいこと等から100年で満砂となる堆砂計画に対し、両ダムとも既に計画堆砂量を超過しており、奥裾花ダムに至っては治水容量へも影響が及んでおり、ダム管理上支障を来し、下流域住民の生命・財産の保全が確保されていない状態である。更に近年の異常気象による集中豪雨の頻発が更なる水害の増加、激甚化が懸念されている。このため、これ以上ダム管理に影響を及ぼさないよう堆砂対策と治水計画の見直しをし、安全で安心な暮らしを確保したい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 いのちを守り育む県づくり(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	河川法		
関連する事業、計画等	信濃川水系長野圏域河川整備計画 長野県地域防災計画、長野県水防計画書、長野市地域防災計画					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	※長野市内 浸水想定氾濫面積 11.04km ² (内訳: 田畑 2.45km ² 、住宅 19,826戸)					
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	43年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2062年度(令和44年度)	費用対効果	1.2		国庫 県債 一般財源等 その他	
全体事業内容(主な工種)	土砂ハイパストネル L=9.0km(裾花:5.2km、奥裾花:3.8km)【R2~R24】 治水容量の確保 【R25~R44】		71,000,000	39,050,000	25,155,000 6,795,000 0	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	浸水想定氾濫区域内の資産確保 年間維持費(堆砂搬出)の軽減 年間維持費(堆砂搬出)の軽減 C=750百万円/年(裾花:460百万円、奥裾花:290百万円)		浸水想定氾濫面積 A=11.04km ² 資産額 C=238,999百万円		
	間接的効果(定量的・定性的)	CO ₂ 排出量の削減 化石燃料消費量の削減		151t/年(運搬車両からの排出) 70 kℓ(運搬車両の燃料(軽油))		
評価の視点	必要性	○浸水想定氾濫区域内の人家戸数 : 19,826戸 ○浸水想定氾濫面積 : 1,104ha ○浸水想定氾濫区域内の公共施設数 : 5施設以上(長野県庁、JR長野駅、長野日赤病院、県民文化会館等) ○要配慮者利用施設の有無 : 有(特養老人ホーム、介護療養型医療施設他多数) ○避難場所、避難路の有無 : 有(県一・二次緊急輸送路、長野市避難場所、避難路)			評価	A
	重要性	○洪水調節回数 : 過去5年に4回 ○交通遮断による地域経済への影響 : 影響度 大(JR、しなの鉄道、国県道(緊急輸送路)) ○利水への影響 : 1日当たり水道供給量 50,000m ³ 以上(裾花ダム 22,000m ³ 、奥裾花ダム 34,250m ³) ○重要水防区域 : 位置付けあり(長野県地域防災計画、長野県水防計画書、長野市地域防災計画)			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.23 ○事業期間 : 43年間 ○工法等の比較代替案の検討 : 高度な検討あり(河川改修、貯水池掘削等) ○他事業との連携 : 共同事業者との調整あり			評価	B
	緊急性	○計画堆砂量 : 計画堆砂量が100%超過(裾花ダム 107%、奥裾花ダム 141%) ○堆砂速度 : 計画よりも2.0倍以上(裾花ダム 2.2倍、奥裾花ダム 3.6倍) ○近年の自然災害発生状況 : 自然災害あり(H29.8)			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(H31.4 河川整備計画策定) ○地域の取り組み : 協力的である(氾濫域の長野市長から安全確保に対する要望あり) ○地域の合意形成 : 図られていない。今後、地域等との協議を重ね、合意形成を図っていく ○住民との協働 : 住民関与が低い事業 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 4-10 キーワード: 環境配慮、関連事業との調整、情報発信			評価	B
	建設部公共事業評価委員会の意見	裾花・奥裾花ダムは、梅雨前線や台風等の豪雨による洪水から長野市街地内の生命・財産を守る重要な施設であるが、計画を上回る土砂の流入によるダム機能の低下と異常気象に伴い増加している集中豪雨の発生状況を鑑み、治水計画の見直しと土砂流入抑制対策が必要であることから、事業着手することが妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	妥当	評価の決定	事業着手	

長野県河川

(一) 裾花川流域図

事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)裾花川は、戸隠山・高妻山を源とし、長野市鬼無里、戸隠地区及び長野市街地西部を還流し、(一)犀川と合流する流路延長50km、流域面積280km ² の一級河川である。過去の長野市街地を中心とした甚大な被害と長野市の人口増加を鑑み、下流域の住民の生命・財産を守るべく治水と長野市民へ上水及び電力の安定的供給を目的とした多目的ダムとして、昭和45年に裾花ダム、昭和55年に奥裾花ダムが建設された。両ダムともに、流域内の山地荒廃が著しく進んでおり、当初計画を上回る土砂がダムに流入・堆積し、堆積土砂は治水及び利水容量を侵し、ダム管理上支障を来していること及び近年の短時間豪雨の発生件数増加と建設当時の計画雨量も変わってきていることから、既設ダムの長寿命化、治水・利水機能の回復・向上を目的とする「ダム再生」が推進されている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成29年8月、流域内で時間50mmを超過集中豪雨による出水で、堆積土砂や流木がゲート内に詰まり、ゲート操作が不能となる事象が発生し、関係機関(北陸地整、長野県企業局、長野市、警察等)に状況を報告するとともにプレスリリースも行った。保全流域である長野市長に状況説明を行った際、安全確保に対する要望があった。
③事業説明等の経緯	増加する集中豪雨に対応すべく治水対策と計画を上回り堆積する土砂対策について、専門的見地から意見を伺うべく、「ダム再生計画技術検討委員会」を平成30年11月19日に設立(委員長:角 哲也京都大学教授他5名)平成31年4月「長野圏域河川整備計画」を策定。裾花・奥裾花ダムのダム再生実施を明記。令和元年9月「ダム再生事業計画審査会(国交省)」実施予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	平成29年8月の集中豪雨により、異常堆積した土砂を災害復旧で搬出中。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	土砂がダムに遮られずにダム下流に流れ、河道内には瀬や淵が創出され、河川生態系が確保される。河床の洗掘を防ぐことができ、既設護岸や取水施設への影響を低減
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、ダム管理が安定的に行われ、長野市街地の治水安全度の向上が期待される。
⑦その他	貯水池内に毎年堆積する土砂の搬出量が縮減できる。

事後・再評価からのフィードバック

- 土砂バイパス施設からの放流、堆積土の直接排出について、下流河川環境に与える影響を評価できるようにモニタリング調査を実施予定
- 多目的ダムであるため、今後共同事業者と分担金、実施方法や時期等について協議を行う予定
- 現地見学会など、流域住民を中心に過去の災害や管理状況を把握してもらう機会を設ける必要がある

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 40' 02" 56

東経:E 138° 07' 12" 79